

巻頭言

故 村田前専務理事をしのぶ

全国グラビア協同組合連合会
専務理事 袖山高明



前専務理事の村田英雄氏が亡くなられたことは、GPJAPAN11月号の全グラコーナーに掲載されましたので既にご存知の方も多いことと思います。

10月5日に逝去され、7日に通夜、8日に告別式と慌ただしく過ぎたために皆様への御連絡も行き届かず、GPJAPAN11月号で初めて知った方も多く、その後、沢山の方々からお電話をいただくことがあり、今更ながら村田さんが亡くなられたことを悼む声が多く届けられることに感慨深いものがあります。

くしくもそのひと月前のGPJAPAN10月号に、遺稿ともとれる巻頭言「印刷文化典と私」として御投稿を

いただき、また9月号には日印産連表彰「印刷功労賞」を受賞された記事が掲載されました。村田さんはこの受賞を大変喜ばれ、不自由なお身体にも関わらず、直前まで、9

巻頭言

印刷文化典と私

全国グラビア協同組合連合会
関東グラビア協同組合 前専務理事 村田英雄



この度は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、(一社)日本印刷産業連合会様より栄誉ある「印刷功労賞」という素晴らしい賞をいただき、格別のご高配を賜りましたこと重ねて御礼申し上げます。

さらに、(一社)日本印刷産業連合会主催2023年印刷文化典 記念式典において「印刷功労賞」の表彰していただけることとなりましたが、私の記憶では第1回の印刷文化典から参加しており、印刷業界がデジタル分野や、IT新技術の発展に寄与し、現在の盛り上がりに参加できるのは感無量です。

さて、今般私債永年替様のご指導のもと、全国グラビア協同組合連合会 専務理事として組合運営の任に当たってまいりましたが、専務理事を退任させていただきました。永く業界に協力させていただき、人生のほとんどもをグラビア印刷と共に永く歩んでこられた幸せ者と感じております。

全国グラビア役員、関東グラビア役員としての14年間、関東プラスチックの組合経験も合せると、組合役員を30年以上勤め、少しでもグラビア印刷の発展、向上にお役にたてればとの信念で過ごしてまいりました。

長い間、私を支えていただいた事務局長の皆様や各種事務のお手伝いをお願いした皆様、そのほか数えきれない組合員の皆様には、言葉では言い表せない程たくさんのご協力をいただきました。

特に、歴代の会長さん、理事さん、組合員さんにはいつも後ろ盾になっていたいただき、至らぬ私をカバーしていただきましたことについては、感謝を申しあげたいほど、多々お世話になりました。

私も寄る年歳には勝てず病を患い、任期途中ではありましたが、後に急遽専務理事として袖山高明氏に就任していただきました。任期途中の就任となり、ご迷惑をお掛けすることになりましたが、私同様のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

また、本誌面をお借りし、(一社)日本印刷産業連合会様はもとより、組合員、賛助会員、「経済産業省」「東京都」、その他関係各位の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

GPJAPAN 2023.10

GPJAPAN10月号に掲載された村田氏の巻頭言

印刷功労賞 村田英雄

前全国グラビア協同組合連合会
専務理事・情報担当顧問

【推薦事由】

昭和58年、マルチグラビア印刷機の代表取締役就任と同時に関東プラスチック協同組合の理事に就任、その後、平成2年に専務理事就任後は4代の理事長を補佐しつつ日印産連、東印産協の各種委員会にて活躍していた。そして翌年の平成20年からは関東グラビア協同組合並びに全国グラビア協同組合連合会の事務局として勤務をはじめ業界発展の為に尽力し、食の安全・安心を担う軟包装資材(ソフトパッケージ)の普及と社会的認知に計り知れない功績がある。



GPJAPAN9月号に掲載された
日印産連表彰の紹介記事

月13日にホテルニューオータニで行われる「印刷文化典」での表彰式に、息子さんを介添えに出席されることを楽しみにされていました。

3度にわたり癌に侵されても尚、その旺盛な好奇心と新しいことにチャレンジする精神は失わず、2度目の手術で声帯を取ってしまわれても、成就までに2年はかかると言われる発音訓練プログラム（発声は出来ないので自身の息で疑似音声を出す）に参加され、「ありがとう」「それはダメだ」等々は聞き取れる程にまで上達されました。

よく事務所にも来られて、色々とおアドバイスをしてくれたり、出来の悪い後輩である私からの質問に手帳サイズの電子ボードに文字を書いて「ああでもない」「こうでもない」とやり取りをし、上手く伝わらずに文字も何を書いているかわからない状況となると、ただでさえ大きな目玉を更に大きく真ん丸にして電子ボードをツツツツついて「おまえ！こうだろう？」と言わんがばかりに痲癩を起していましたが、こちらも「わからないものはわからない」と思いやりのかけらもない対応をすると、最後はあきらめて帰っていくようなことが度々ありました。

それでもなお事務所に来てくれることの安心感には絶大なものがあり、いるとどうしても頼ってしまい、その有り難さが身に沁みるのは、事務所に来ることが殆どなくなった時でした。

3度目の癌は腰の骨に発生し、体力的に限界と思われる放射線療法と化学療法を併用され、体調の良い時は全グラ事務所に出向いてくれました。

事務所から歩いて5分のご自宅を引き払われ、千葉の娘さんの近くの住まいで暮らされており、正式に「印刷文化典」を欠席する旨のメール連絡をいただいたのは8月下旬でしたでしょうか。

病院で緩和療法に入られたころから急速に体力を消耗し、10月5日に御息から訃報がもたらされたのでした。最後までグラビア人としての業務を全うされた76年間だったのではないのでしょうか。今でもモタモタ仕事をしていると大きな目玉をひん剥いて電子ボードをツツツされる様に思え、ふと村田さんの気配を感じることがあります。

村田さん、あの世でゆっくりしてないで、私をもたついていたら出て来て下さいね……

終活川柳大賞

これからの人生をいきいきと 「戒名も 墓も決まって ジム通い」が大賞に

超高齢社会を背景に需要が高まる「終活」に関するサービスを提供する(株)鎌倉新書が運営する店舗「窓口de終活」が「終活」を新たな発想で捉え直し、その意義を再考するきっかけとしてもらいたいという思いから企画・実施する「終活川柳大賞」の受賞作が発表されました。受賞作品は、いずれも今後の人生をより良くするための、ポジティブでユーモアにあふれるものばかり。ここでは、応募総数2131件（5242句）の中から選ばれた受賞作の一部を紹介します。

大賞

戒名も 墓も決まって ジム通い

ひで 神奈川県 67歳

選評：終活の一環として、生前に戒名を決め、お墓の購入も終え、晴れ晴れとした気持ちで前向きにシニアライフを楽しんでおられる様子が伝わり、審査員の中で最も高く評価されました。

窓口de終活賞

—(株)鎌倉新書社長・プッシュ作—

夫より ペットと入れる 墓探し

チョコあんこ 宮城県 29歳

選評：お墓探しという重要な局面で、夫をとるか、ペットをとるか？想像するについ、クスッと笑ってしまう雰囲気好評でした。審査員の中には、自分の姿を重ねて考え込む者もいたようです。

優秀賞

—(株)鎌倉新書会長・プッシュ作—

終活が 減らす不安と 子の負担

ミファ 福岡県 37歳

選評：終活ってご自身のためだけでなく、ご家族をはじめ、周りの人のためにもなりますよね！終活のメリットを凝縮した一句です。まさに終活の特徴である、一挙両得、一石二鳥感を表しています。

優秀賞

—橋本大二郎さん・プッシュ作—

孫生まれ 逝きたい気持ち 生きたいに

春蚊秋冬 東京都 51歳

選評：初孫誕生の喜びがストレートに伝わってきます！お孫さんの成長をしっかり見守るためにも、健康管理や財産の整理など、ますます終活が大切になりますね。

優秀賞

—吉幾三さん・プッシュ作—

面倒だ 死なないことに しょうかな

みえこ山 東京都 51歳

選評：すごくわかります！もしもの時のことを考えると、やらなくてはいけないことがたくさんありそうで、「大変そう……」ってなりますね。そんな漠然とした思いを整理するためにも、ぜひ終活に取り組んでみてください。

すべての受賞作は特設ホームページでご覧になれます。



<https://shukatsu.life/lp/senryu/>



全グラ情報

JAPAN



全国グラビア協同組合連合会

CONTENTS

- 巻頭言 故 村田前専務理事をしのぶ** 1
全国グラビア協同組合連合会 専務理事 袖山高明
- これからの人生をいきいきと「戒名も 墓も決まって ジム通い」が大賞に** ... 3
終活川柳大賞
- 全グラコーナー** 6
全国グラビア協同組合連合会 理事会
下請適正取引の推進に向けた自主行動計画改定版2023の活用を
- 「COP28に向けた CN に関する海外主要国の動向」を公表** ... 9
NEDO
- 組合員・単組の近況** 10
関西グラビア協同組合青年部 令和5年度青年部忘年会
- 目立ってしまいますが、実力もすごいのです** 12
軟包装価値向上委員会
- JFPI** 14
研文社尼崎工場 IPA レス化、低 VOC 洗浄液へ
文伸 GP マーク総部数は200万枚超
第55回 GP 工場交流会
- 運賃値上げ改善も、約8割は希望より低い収受** 16
東ト協連 第39回 運賃動向に関するアンケート調査結果(1)
- 日本にはこんなに印刷好きがいる!?**
小山氏・津田氏が興味の尽きない印刷を語る 20
「印刷と私」トークショー

写真上段：10月18日にDNP 佐内町ビル・ホールにて開催された「印刷と私」トークショーの様子（左）、11月29日（いい肉の日）に純関西風すきやき専門店「本せきぐち」にて開催された関西グラビア協同組合青年部忘年会の様子、写真下段：11月9日に第一ホテル両国「北斎1」にて開催された全国グラビア協同組合連合会の理事会の様子



WE LOVE GRAVURE

Packaging	23
モノマテリアル包装用ジッパー「MML-13E」 タキロンシーアイ	
GP 認定制度申請についてのお願い	24
GP 工場認定制度のご案内	26
Data Watch 2023年8月データ	28
紙・板紙／不織布／粘着テープ・シート類／プラスチックフィルム・シート／インキ／ ポリプロピレンフィルム／印刷加工機械／印刷機械輸出入／アルミ箔／ポリオレフィンフィルム	
紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2023年9月データ	34
2024年4月から労働条件明示のルールが変わります	38
厚生労働省	
来年4月からルール改正に、労働条件明示等に関するQ & A	40
職場のハラスメント対策リーフレット	43
厚生労働省	
Info	
東洋インキ・相川鉄工・萩原工業、プラリサイクルに関する共同開発契約締結	42

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会
e-mail: zenkoku-grv@utopia.ocn.ne.jp
http://www.gcj.or.jp/
までご連絡下さい。

本文ページの紙は、無塩素漂白パルプから作られたものを使用しています。

発行：2023年12月10日
発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
発行所：全国グラビア協同組合連合会
〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
あさひ墨田ビル
TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
渡邊富美子、酒井由香（同事務局）
編集協力：（株）加工技術研究会
印刷：（株）遊文舎

© 全国グラビア協同組合連合会2023

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

全国グラビア協同組合連合会 理事会

下請適正取引の推進に向けた 自主行動計画改定版2023の活用を

全国グラビア協同組合連合会は、2023年11月9日(木)午後零時30分～3時5分まで、東京・第一ホテル両国「北斎Ⅰ」において理事会を開催した。当日は、田口 薫会長（関東グラビア協組、大日本パッケージ(株)）、安永研二副理事長（同、東包印刷(株)）、石井 純副理事長（関東プラスチック印刷協組、(株)多連堂）、母里圭太郎副理事長（九州グラビア協組、(株)平野屋物産）、若狭博徳副理事長（北海道グラビア印刷協組、(株)北海サンコー）、山下雅稔理事（関東グラビア協組、(株)巧芸社）、吉原宗彦理事（同、東京加工紙(株)）、川田雄治理事（同、トーホー加工(株)）、東 勇一理事（関東プラスチック印刷協組、(株)トーショー）、市村清一理事（埼玉県グラビア協組、(株)ダイトー）、佐伯陽子理事（同、(株)佐伯紙工所）、大野寿之理事（北海道グラビア印刷協組、極東高分子(株)）、浮田信也理事（東海グラビア印刷協組、大和産業(株)）、奥田拓己理事（関西グラビア協組、(株)北四国グラビア印刷）、賀谷真尚理事（北陸グラビア協組、賀谷セロファン(株)）、織田憲三理事（同、アートボックス(株)）、中村政晃理事（九州グラビア協組、(株)三裕商会）、袖山高明専務理事、都築晋平顧問の19名が出席した。田口会長が議長を務め、下記の議題について議論した。



理事会に先立ち、田口 薫会長がこれまでに『GPJAPAN』巻頭言に寄せた原稿や、食品値上げ、賃上げに関する各種記事、大手企業の価格交渉・価格

転嫁の取り組みについての資料を基に次のような挨拶を行った。

「職人を大切にしない日本はこれからどうなるのか。それなりの給料を払うべきでしたが、それをしなかったがために、特にものづくりから人が離れてしまいました。大きなミステイクだと思いますが、まだ取り返せます。これからどんどん取り返してほしいと思います。

『お客様は神様です』の精神や自己犠牲はいけません。これまで、いかに自分達の会社が儲からないようにしてきたかを自己反省しなくてははいけません。

世の中は変わっています。この資料を持ち帰って社員の方々に実践するように勤めていただきたい。今はピンチな状況かもしれませんが、ある意味でチャンスでもあります」

全グラ2023年度上半期決算

袖山高明専務理事より、ほぼ前年同程度の支出収入で進めているとの報告があった。

全グラ・関グラ・関プラ合同新年賀詞交歓会

2024年1月12日(金)にホテルニューオータニ東京の「おり鶴 麗の間」において開催する「全グラ・関グラ・関プラ合同新年賀詞交歓会」について、コロナ以降、出席者の制限など規模を縮小した開催が続いていたが、来年は来賓などを含めて260名程度が参加するフルの新年会に戻る予定との報告があった。なお、当日は午後零時半～3時まで定例理事会が行われ、午後3時半より賀詞交

歓会となる。

日印産連 GP 表彰式とトークショー



山下雅稔理事より、GPのPR活動として、9月に小山薫堂 GPPR大使がナビゲーターを務めるFMヨコハマのラジオ番組を活用したこと、それをきっかけに

日印産連GP推進部会長とGP事務局が同じくFMヨコハマのSDGsの特番で取材されたことが報告された。また、10月18日開催のGP環境大賞等表彰式については、今回初めて小山氏の番組リスナーと、当日トークショーに登壇した津田淳子氏が編集長を務める『デザインひきだし』の読者から一般参加を募集し50名が来場したこと、10団体からの出席が少なく、当日の参加者は約160名であったとのこと、「来年以降、より多くの方に参加いただけるような形にしたいと考えています」との報告がなされた。



続いて、吉原宗彦理事からGPマーク普及大賞を受賞した(株)北四国グラフィア印刷へお祝いの言葉があり、その後、11月16日(木)に

経済産業省関東経済産業局主催、日印産連共催で開催される「中小企業のためのVOC排出抑制セミナー～低コストで簡単なVOC対策方法等を学ぼう!～」へ、「時間がある方はぜひ参加をお願いしたい」との呼びかけがあった。

全グラ条件付き決議「監督者・事務局員並びに大阪岬評価試験会場報酬及び運用規定(案)」

袖山専務理事より、全グラ条件付き決議「監督者・事務局員並びに大阪岬評価試験会場報酬及び

運用規定(案)」について、「9月13日の全グラ理事会会で決議、翌14日に経産省へその旨をメールで上申しています。その後も議事録等の提出を行い、現在はその結果を待っている状況」との経過報告が行われた。

下請適正取引の推進に向けた自主行動計画改訂版2023&徹底プラン



日印産連が公表した印刷産業向けの「下請適正取引の推進に向けた自主行動計画改訂版2023&徹底プラン」について説明があった。

改訂版の自主行動計画の中には、下請適正取引の推進や契約条件の明確化と書面交付、受領段階での留意事項などについて、具体的な取り組み方や問題事例、グッド・プラクティスが示されているので、ぜひ活用していただきたい。

<下請適正取引の推進に向けた自主行動計画 改訂版2023>

<https://www.jfpi.or.jp/files/user/pdf/kaiteiban.pdf>

<下請適正取引の推進に向けた自主行動計画の徹底プラン>

<https://www.jfpi.or.jp/files/user/pdf/tetteiplan.pdf>

景況

- 食品値上げの影響で売上が落ちている商品は受注量にも影響
- 仕事は少ないが、価格・サービス競争は落ち着いている
- 在庫は約3カ月前がピーク、その後、注文が入ってきている状況
- 去年からの在庫がようやく半分ほどに減った

- 受注残は低いが、仕事は少し明るい兆しが出てきた
- 受注残が極端に減っている会社が多い
- 納期1カ月以上確保できていたが、11月に入って納期の相談が増えてきた
- 新型コロナウイルスが5類に移行となり、土産菓子関係を中心に売上ができた
- インバウンド等で昨対プラスで推移
- 条件が厳しい顧客と取引を中止したことで利益改善につながった。今は無理を聞く時代ではない
- 依然、新卒、途中で採用が厳しい
- リファラル採用での入社があった
- 定員は確保できているが、我々世代で頑張っている状況
- パート時給が上昇。人口が少ない地域でも1000～2000円の求人が出ている
- 賃金上昇は人材確保に影響が出るだろうと心配
- 若い世代がこの仕事に就いてもなかなか続かない。今後の業界や会社の人材確保に苦慮している
- ライフワークバランスに合わせた働き方などを提案して人材募集をかけても、これといった反応がない
- 人の出入りが激しく、機械が1台回せない状況であったが、再稼働の目途が立った
- 協力会社でも人手不足や機械の故障でこれ以上仕事が受けられないという話も
- ユーティリティ、人件費、諸経費の値上げは50～60%成功、大手は長引いている
- 原発が稼働しても電力確保の改善が進まない。どうやって冬を迎えるか悩ましいところ
- これまでの商習慣の中で行われていた振込手数料負担について認識を改めた
- 「自主行動計画改定版」をもっていき説明をしたら、すぐに改善してもらえた
- コンプライアンスについてしっかり教育している会社と、未だに昔と変わらない会社にはっきり分かれてきたことを感じている
- コストコ商品再販店のようなビジネスモデルが今後の脅威と感じる



「COP28に向けた CNに関する海外主要国の動向」を公表

NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）は、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）に向けて、海外主要国のカーボンニュートラル（CN）に関する政策などの動向を調査分析し、その結果をまとめたTSC Foresight 短信レポート「COP28に向けたCNに関する海外主要国（米・中・EU・英・独・インドネシア・インド・UAE・サウジアラビア）の動向」を公表した。

概要

「COP28に向けたCNに関する海外主要国の動向」では、以下3つの視点から主要国のCNを巡る政策、技術動向などを調査した。

- (1) COP27以降の主要国のエネルギー政策・投資・国際連携の動向
- (2) グローバルサウスとして台頭する途上国の動向
- (3) 中東諸国における脱炭素を巡る動向

調査の詳細

昨年度に引き続き、COP開催前にCNに関する主要国の状況などを総括したが、主要国におけるCNの大方針は変わらない一方で、各論においては一部で大きな転換も見られた。

(1) COP27以降の主要国のエネルギー政策・投資・国際連携の動向

先進国においては、CNに係る自国産業の振興が至上命題であり、EUにおいては欧州グリーンディール産業計画が策定されるなど、米国のインフレ抑制法を発端とした自国産業保護・振興政策が一層加速する動きがあった。加えて、自国経済や安全保障への懸念から、ガソリン/ディーゼルの新規販売禁止時期の延期やCCSなどの低炭素化技術の活用など、化石エネルギーを活用しつつもCNを達成しようという動きが顕著に見られた。

(2) グローバルサウスとして台頭する途上国の動向

グローバルサウスとして台頭してきた途上国は、CNに対する支援を先進国に求めるだけでなく、自らの擁する鉱物資源や次世代エネルギー製造拠点としての潜在能力、さらには国際政治面での立ち位置などもカードとし、国際社会において大きな存在感を発揮する様子が伺えた。その結果、先進主要国にとってもCN政策を進めていく上で途上国との協調が不可欠となり、先進国～途上国間の連携協定締結の動きも活発になった。

(3) 中東諸国における脱炭素を巡る動向

グローバルサウスの一角を構成し世界有数の石油や天然ガスの産出地域でもある中東諸国は、世界的なCN実現に向けた潮流の中、脱炭素と自国経済構造の大変換を迫られ、化石燃料からCN燃料の産出国としての変貌を視野に入れている。事実、地政学的な強みを活かしつつ、先進国との技術協力を含めた連携を一層強化する動きが確認された。

今後の予定

NEDOでは、こうした国際的な動向も考慮に入れつつ、各国のファンディングエージェンシーや研究機関との連携や、各種国際プロジェクトの組成および実施に取り組んでいるところであり、今回の調査・分析の結果も踏まえつつ、今後もこの動きを一層加速していく。

組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

令和5年度青年部忘年会

関西グラビア協同組合青年部（森脇拓也青年部部長、森脇鉄工(株)）は、2023年11月29日（水）午後6時から、大阪ミナミで明治17年創業の純関西風すきやき専門店「本せきぐち」において27名参加のもと、令和5年度青年部忘年会を開催しました。



森脇青年部部長による
開宴挨拶

事務局の司会によって進行し、開宴に際し森脇青年部部長が、年末に向け多忙な中を集まっていただけなことへの謝意とともに、先日開催された青年部全国大会について、2012年に関東と関

西の青年部のみで始まった交流会が、2016年には東海、九州を加えた第1回青年部全国大会が名古屋で、2018年には第2回が博多で開催されました。コロナを経て今回5年ぶりとなる第3回は北陸も加え80名近くが日光の地に集いました。第1回は「初めまして」で始まった交流会も回を重ねる毎に見知った顔が増え、非常に有意義な情報交換ができました。そして2年後の2025年は我々関西が主催の第4回青年部全国大会が開催されます。今からしっかりと準備をして全国の青年部の皆様を迎え入れたいと今から楽しみにしています、と挨拶しました。

その後、来賓である竹下晋司理事長の乾杯の音頭で忘年会が始まり、ザラメと薄口醤油のみで味付けする純関西風の最高級神戸牛すき焼きに舌鼓



竹下理事長による乾杯音頭



明治17年創業の純関西風すきやき専門店「本せきぐち」

を打ちながら、賑やかに情報交換を行いました。

開宴の挨拶は組織交流委員長であり今回の忘年会会場を決定した竹下元青年部副部長から、「本せきぐち」を会場に選んだ理由として、青年部が設立当初から貫く「一流のもの、本物に触れることで感覚を高める」という理念に則り、大阪ミナミの喧噪の中で昭和の佇まいである店が明治17年から現在まで続くのはなぜだろうと問いを巡らせることで感覚を高め、明日からの仕事に生かしてほしいという思いとともに、今日が11月29日、いい肉の日だからです！と、思わぬ種明かしに「おおっ！」と会場に歓声上がるなか、一本締めで午後8時、青年部今年最後の行事を無事に終えました。



開宴の挨拶は
竹下青年部副部長

Snapshots



目立ってしましますが、 実力もすごいのです

「薄く、軽く、柔らかい」が、私たちが皆さんにお届けしている袋の特徴で、「ソフトパッケージ（＝軟包装）」と呼ばれています。一見頼りなさそうな感じを思い浮かべられるかも知れませんが、実はとんでもない優れモノなのです。

●「閉じる」

食品など中身を入れた後、瞬時に**密封**する機能を持っています。

→「入れる」だけのレジ袋との大きな違いです。

●「届ける」

食品工場から配送センターの倉庫、コンビニやスーパーなどの販売店へ運送する際に、あるいは皆さんがお持ち帰りの際に、中身がもれたり流れ出たりすることはありません。棚や冷蔵庫などの収納でも同じで、柔らかいために狭いスペースにも収まります。

●「保つ」

『湿気る』 → お煎餅が湿気てしまっては美味しくありませんね。

『腐る』『酸化する』『かびる』 → 食品がこれでは美味しくないところか、食べることもできません。

「ソフトパッケージ」はこれらを防止する機能を持っていますので、安全・安心にお使いいただけます。

また、中身の香りや、外の異臭・悪臭などもある程度遮断することもできます。何故、そんなことができるのかと言いますと、1ミリメートルの100分の1から数10分の1程度の極薄の様々な機能性プラスチックフィルムや金属箔、紙など他素材との複合化によって出来ているからです。一見、1枚のペラペラのフィルムに見えがちですが、実はそうではないのです。

そして、忘れてはいけないとても重要な役割があります。

●「伝える」

グラビアという印刷方式により、皆さんの「健康」「衛生」を支えるためにお伝えしなければならない情報を表現できるとともに、中身のPRや、カラー印刷を用いたキレイで可愛らしいデザインを施すことも可能です。

いかがですか。「賞味期限」を守りつつ、フードロスの削減にも役立ち、安心してお使いいただけるこの優れモノ、「ソフトパッケージ」の価値を改めてお考えいただけませんか。

でも、いったん袋を開けてしまうと密封状態ではなくなりますので、チャック（またはジッパー）付きの袋をお使いの場合でも、また、輪ゴムなどで開封部を止めて頂いたとしても、本来の機能は既に損なわれていますので、出来る限り早めにお召し上がり下さいね。

軟包装価値向上委員会 配布資料Ver02 2023年7月6日改訂

第55回 GP 工場交流会

研文社尼崎工場 IPA レス化、低 VOC 洗浄液へ 文伸 GP マーク総部数は200万枚超

日本印刷産業連合会（日印産連）は、2023年10月30日（月）にオンラインにて第55回 GP 工場交流会を開催した。9月28日開催の第72回グリーンプリンティング（GP）認定委員会において、オフセット印刷部門で新たに GP 認定を受けた5工場を紹介後、第21回印刷産業環境優良工場表彰で経済産業大臣賞を受賞した(株)研文社尼崎工場の河田和弘工場長と、今年度の GP マーク普及大賞を受賞した(株)文伸の川井伸夫代表取締役社長による講演が行われたのでその内容を紹介する。

CO₂排出量ゼロ電力等、環境配慮型印刷 に取り組む

研文社は商業印刷やオンデマンド印刷などを手掛ける総合印刷会社。2023年に第21回印刷産業環境優良工場表彰にて経済産業大臣賞を受賞した。

ISO14001やFSC認証取得、兵庫県尼崎市「あまがさき SDGs パートナー」登録などに取り組む中で、尼崎工場は2021年に GP 認証を取得した。

2012年の新工場移転とともにオンデマンド工場を目指し、UV印刷機を採用した。インキも、メーカーにベジタブルUVインキを試作してもらい、テストを繰り返し、省電力型UVインキすべてでエコマーク基準を達成、当社の印刷物は環境配慮型印刷となった。

IPA（イソプロピルアルコール）レス化については、2012年11月にIPAおよびIPA代替液を完全撤廃し、低VOC印刷へ転換した。ブランケット・

圧胴の自動洗浄装置を含浸タイプに変更し、従来洗浄に比べ洗浄液の使用量削減に成功した。

社員に対しては、溶剤や使用済みウエスがいった容器を蓋付きのケースに変更して蓋閉めを徹底すること、一斗缶には蛇口を付けて強制的に閉められるようにするなどの安全衛生の再徹底に取り組んだ。

また、最も使用量の多い洗浄液を、PRTR、有機溶剤中毒予防規則（有機則）、消防法非該当の溶剤へ変更した。当初、これら非該当の洗浄液は①臭気がきつい、②洗浄性が悪い（溶解性が悪い）、③ローラーに液が残る（乾燥性が悪い）、といった課題から作業者の支持を得ることができなかったが、臭気はメーカーに対策を依頼、溶解性はドクター刃の角度を改良、乾燥性は洗浄パターンの変更を検討することで実現した。

2017年9月の印刷産業環境優良工場表彰に応募するため、改めて工場全体で使用しているVOCをすべて調査し、印刷で使用する主な資材から

VOCを削減、さらにVOC警報器を8台設置して工場環境を確認した。外部機関による調査も行い安全は確認できているが、それでもなお警報音が鳴ることもあり、洗浄作業時は局所排気のスイッチ入れとマスクの着用は必要だと判断している。

当工場では、尼崎市クリーンセンターから廃棄物発電により発電したCO₂排出量ゼロ電力の供給を受けることで、年間約370トンのCO₂排出量削減を達成し、当社での生産物はCO₂ゼロプリントを実現している。ただ、個別の排出量は分からなかったため、印刷物のCO₂排出量をライフサイクルアセスメントに基づき算定し、CO₂排出量を印刷物に表示できるように「見える化」を実現した。

2022年12月に、当社を含む8社で印刷業界の健全な発展と社会貢献への寄与を目的に「日本サステナブル印刷協会」を設立した。Scope1、2のCO₂排出量が実質ゼロで稼働する工場をカーボンゼロプリント工場と認定し、認定工場で印刷された製品には「カーボンゼロプリントマーク」、印刷物のライフサイクルにおけるCO₂排出量を算定し、それを有償でカーボンオフセットした印刷物には「カーボンニュートラルマーク」を表示できる。

GP認定制度は印刷産業環境優良工場表彰に取り組む中で知ることができた。環境配慮型資材もGP資材を検索すれば容易に入手できる。GP認定を受けたことでクライアントには環境配慮工場としてアピールができ、GPマークを提案することで印刷物の付加価値を創出し、受注拡大にも寄与している。

GPマーク周知を実感

文伸は東京都三鷹市で地域に根ざした印刷物を手がけながら、取材・編集、企画、出版、Webや

映像制作など業務領域を拡大している印刷会社。2023年にGPマーク表示印刷製品をより多く受注・製造した印刷会社を表彰するGPマーク普及大賞オフセット印刷部門を受賞した。自社にとって悲願の受賞ということもあったが、クライアントも一緒に受賞できることで、両社にとってWin-Winの関係を構築でき、感謝している。

コロナを機に動画作成の依頼件数が増えている。創業60周年の記念動画や、GP認定工場としての取り組み、SDGsに対する意識などのPR動画をYouTubeで公開している。工場見学もコロナを境に変化し、工場の外観から工場内の印刷状況をドローンで撮影したオンライン工場見学の動画を作成している。

GPマーク付与状況は、行政や学校で年間取扱件数が増えており、2019年には総部数が200万枚を超えた。そのほかにも、地域団体や一般企業等、多くのクライアントへ提案を行っている。

GPマーク普及に取り組む中で、「各営業部員の周知に関する積極的な提案」「制作部での初校時のマーク付与の有無の確認」「業務管理システムをカテゴリ分けすることでGP付与している企業・団体の把握が可能に」といった成果が得られている。一方で、「デザインにこだわる案件もあり付与部分に関する提案が難しい」「環境への配慮がいかに大切かをクライアントに伝える熱量がやや不足している部分」といった課題もある。

クライアントから「GPマークを付けて欲しい」という要望は多くはないが、定期物にマークが付いているものがあるため、少しずつ周知されているように感じている。まずはGPマークを知ってもらうことが大切であり、引き続き普及活動を続けていきたい。今後は、GPマーク普及大賞ゴールドプライズを目指していきたい。

運賃値上げ改善も、 約8割は希望より低い収受

東京都トラック運送事業協同組合連合会（東ト協連）は、近時の運賃動向の把握を目的に年2回の「運賃動向に関するアンケート調査結果」を実施している。2023年10月に39回目の調査結果が公表され、目前に迫る「2024年問題」への取り組み状況やその対応策、処遇改善に係る賃上げ状況などに関する現状が明らかになっている。ここでは2回にわたり、これらの調査結果を紹介する。

調査の概要

調査時期は2023年7月31日、東ト協連に加盟する協同組合から40協同組合を選定し、調査対象を200事業者として該当協同組合に配分し、各協同組合において組合員の中より選定して調査票を配布し、168事業者から回答を得たものになる。回収率は84.0%。

保有車両規模は縮小傾向に

自社の保有車両台数は、回答のあった166者（社）のうち、最多が「11両以上～20両以下」（46者、27.9%）で、前回調査（2023年1月31日）より0.3ポイント減少、次いで「10両以下」（42者、25.5%）で同0.2ポイントの増加。この2区分で5割を超える結果となった。

なお、回答者の112者（社）（67.9%）が保有車両台数「30両以下」で前回より0.9ポイント増加し、保有車両規模の縮小が見られる。

84%が希望より低い収受運賃

回答のあった165者（社）中139者が「現行の収受運賃料金は、希望する運賃料金より低い」（「極めて低い」「低い」「少し低い」の回答合計、84.2%）と回答したが、前回調査より1.6ポイン

ト減少した。一方、「希望通り」との回答は15.2%で同1.0ポイント増加し、「希望より高い」との回答は1件で、依然厳しい状況にあることが判明した。

なお、「現行の運賃料金」と「希望する運賃料金」の乖離幅は、回答のあった138者（社）のうち、最多が「10%以上～15%未満」（38.4%、前回調査比1.6ポイント減）であった。また、割増率15%以上を希望する事業者は31.2%で同0.9ポイント増加した。

90%以上が高速道路料金を収受

回答者の151者（社）（92.7%）が高速道路料金を「収受している」（「原則として収受」「指定された場合のみ収受」の回答合計）。これは前回調査より0.4ポイントの増加に転じた。「指定された場合のみ収受」が73者（社）（44.8%、前回調査比3.4ポイント増）、「利用しても収受できない」との回答は8者（社）（4.9%、同1.0ポイント減少）であった。

自由記入には次のようなコメントが寄せられた。

- 都度取り決め
- 運賃込み（「利用しても収受できない」と回答）

- 配送料込み（「利用しても收受できない」と回答）
- 客先都合の場合と時間指定に間に合わない場合に收受
- 片道分のみ
- 道路代含む（メインの荷主）、その他は原則として收受している

サーチャージ導入は前回調査より

2.9ポイント増加

軽油等の燃料価格が高値で推移している中で「燃料サーチャージ制」は、「導入したことがない」との回答が103者（社）（62.0%、前回調査比1.5ポイント減）で最多であった。「導入している」との回答は34者（社）（20.5%、同2.9ポイント増）、「導入していたが今はしていない」は17者（社）（10.2%、同0.8ポイント増）となった。

また、「導入している」と「導入していたが今はしていない」「検討中」と回答した事業者にその理由を自由記入で求めたところ、それぞれ次のようなコメントが寄せられた。

導入している

- 同業者（貨物運送同業者）：総運賃により金額は先方より提示される（約0.3%）
- 同業者（貨物運送同業者）：運賃の10%
- 同業者（貨物運送同業者）：設定はしているが、收受はできていない
- 同業者（貨物運送同業者）：走行キロから平均燃費で燃料使用量×5円平均
- 同業者（貨物運送同業者）：荷主から運賃とは別で收受している
- 卸売業・小売業（飲食料品卸業）：2t車の平均燃費を7km/Lとして、15円/Lを走行距離に応じて收受
- 卸売業・小売業（建築材料、鉱物・金属材料等

- 卸業）：（2t、3t、4t、大型）①当社仕入れ分100円/Lを超過分に対して半分を負担していただいている、②定額で2t－¥3,800、4t－¥4,800を請求時に上乗せしている
- 卸売業・小売業（飲食料品卸業）：荷主の計算方法による
- 卸売業・小売業（繊維・衣服・身の回り品小卸業）：L＝100円を超過分について補助
- 製造業（石油商品・石炭製品製造業）：距離程×燃料単位×係数
- 製造業（非鉄金属製造業）：導入しているがほぼ收受されていない
- 製造業（パルプ・紙・紙加工品製造業）：運賃の6%
- 製造業（金属製品製造業）：荷主工場のインタンクで給油時1L100円以上の部分は荷主工場が負担
- 製造業（金属製品製造業）：先方の計算にて出された金額を単価に上乗せされている
- 製造業（金属製品製造業）：運賃とは別に（10t＝2.8km/L、トレーラー＝1.8km/L）走行キロ別40km～900km
- その他（製造業）：基準価格（100円）を超えた場合、燃費と走行距離に応じて收受している。燃料サーチャージ導入時（平成21年）は基準価格65円だったが、「標準的な運賃」には100円となっているため、現在は100円で計算している
- 物流子会社（製造業等事業の物流子会社）：基本運賃に対して3%（ただし1社のみ）
- 物流子会社（製造業等事業の物流子会社）：L100円以上になった場合、その給油量に応じて
- 物流子会社（製造業等事業の物流子会社）：タリフの設定で一定のサーチャージを收受（固定）

建設業（総合建設業）：50円/km
記載なし：運賃とは別立て
記載なし：車立ではなく出荷単価
記載なし：荷主の計算方式により
記載なし：届けのみで請求はまだしていません

導入していたが今はしていない・検討中

- 荷主から荷主客先への運賃変更となり手間と時間がかかりすぎる
- 荷主が理解していないため
- 今年、運賃に含めた金額でアップしてもらえた
- 一日の走行距離が少ないのでサーチャージより基本運賃の値上げをお願いしている
- 荷主へ打診しているが、回答無し
- 「燃料サーチャージ」という名目で認めてもらいづらい為、距離の名目で運賃に上乘せして請求している
- 意味がない。理解されない
- お客様が変動費を嫌い、以前導入した際に基本料金を値上げしたため
- 走行距離が少なく、導入する手間（計算）の方が手間がかかる
- 荷主によりけり
- 得意先との導入交渉が進んでいない
- 得意先が認めない
- お客様より燃料サーチャージ分として上乘せさせて頂いた時期はありましたが、今はありません
- 荷主の理解が得られ難い事と、変動処理の煩わしさ

運賃料金、約3割が値上げに

半年間の運賃料金収受状況については、回答のあった164者（社）中で最多は「特に変化はない」が106者（64.6%、前回調査比12.4ポイント減）との前回（127者（社））より大幅に減少した。ま

た、「値上げになった」は52者（社）（31.7%、同11.7ポイント増）と運賃交渉等の成果として運賃収受の大幅な改善が見られた。一方、「値下げにあった」は2者（社）（1.2%、同変わらず）と変化はなかった（表1）。

半年後の運賃料金の収受状況については、最も多い回答はこれまでと変わらず、「特に変わらないと思う」が109者（社）（66.1%、前回調査比0.4ポイント減）であったが減少傾向が見られる。一方、「値上げが出来るであろう」（40者（社））が前回調査を1.1ポイント下回る24.2%の回答となった（表2）。

自由記入には次のようなコメントが寄せられた。

半年間の運賃料金収受状況の変化

- 0.5～1.3%の増、公取逃れの値上げ（大手宅配）（「値上げになった」と回答）
- スポット料金に対しては5%くらいを目標に値上げを始めている
- 一部（「値上げになった」と回答）
- 全てではないが、何社か値上げが認められた（しかし満足のいく額ではない）。メインの客先で値上げが難航している
- 今年の2月に値上げの意思を申し入れ、4月に希望料金を提示、以降何度も問い合わせるが検討中の返事のみ
- 値上げされたが、荷主の事業内容により下がった所もある
- 一部で値上げになった

半年後の運賃の状況

- 運賃交渉の際、散々細かいデータを出せと言われデータを揃えて提出したが、1台1日400円の値上げでお茶を濁された。月60時間以上1.5割の残業代にもならない（「特に変わらないと思う」と回答）

表1

過去3回の調査結果	今回		38回		37回		36回	
	回答数	構成率	回答数	構成率	回答数	構成率	回答数	構成率
①値上げになった	52	31.7%	33	20.0%	30	17.4%	8	4.9%
②特に変化はない	106	64.6%	127	77.0%	133	77.3%	145	89.5%
③値下げにあった	2	1.2%	2	1.2%	4	2.3%	5	3.1%
④その他	4	2.4%	3	1.8%	5	2.9%	4	2.5%
計	164	100.0%	165	100.0%	172	100.0%	162	100.0%
未記入	2		5		1		6	
回答数計	166		170		173		168	
調査数	200		197		200		200	

出典：東ト協連「第39回『運賃動向に関するアンケート調査結果』（2023年10月16日）」

表2

過去3回の調査結果	今回		38回		37回		36回	
	回答数	構成率	回答数	構成率	回答数	構成率	回答数	構成率
①値下げの可能性が強い	10	6.1%	11	6.5%	12	6.9%	13	8.2%
②特に変わらないと思う	109	66.1%	113	66.5%	124	71.7%	126	79.7%
③値上げが出来るだろう	40	24.2%	43	25.3%	35	20.2%	16	10.1%
④その他	6	3.6%	3	1.8%	2	1.2%	3	1.9%
計	165	100.0%	170	100.0%	173	100.0%	158	100.0%
未記入	1		0		0		10	
回答数計	166		170		173		168	
調査数	200		197		200		200	

出典：東ト協連「第39回『運賃動向に関するアンケート調査結果』（2023年10月16日）」

- 最低賃金上がるタイミングで交渉する可能性あり
- 最近の物価上昇に伴い値上げ交渉がしやすい状況なので、この機を逃したくない（「値上げができるだろう」と回答）
- 荷主が物流業界の危機的状況を理解していない事が多く、運賃値上げに応じたとしても希望額には達せず、標準的運賃との差は当面縮まらない予想
- 昨年値上げしている
- 「できるだろう」というより「何としても値上げしてもらう」という気持ちで強く交渉していく（「値上げができるだろう」と回答）
- 物量が減少しているため（「値下げの可能性が強い」と回答）
- 先は分からないが値上げが出来なければ非常に厳しくなるだろう
- 上がらなければいけない（「値上げができるだろう」と回答）
- 現状維持
- 2024年問題の報道により、荷主・ユーザーの理解が少しずつ得られていると感じる。2024年4月1日運賃値上げに向け作業中

日本にはこんなに印刷好きがいる!?

小山氏・津田氏が興味の尽きない印刷を語る

(一社)日本印刷産業連合会(日印産連)は、2023年10月18日(水)に、東京・DNP佐内町ビル・ホールにおいて「GP(グリーンプリンティング)環境大賞等表彰式」を執り行い、GPJAPAN11月号でも既報の通り、2023年のGP環境大賞・準大賞、GPマーク普及大賞・準大賞、GP資機材環境大賞受賞企業・団体に表彰状が手渡された。表彰式終了後の午後5時より、GPPR大使を務める小山薫堂氏と、(株)グラフィック社でデザイン、印刷、紙、加工にまつわる様々な技術情報を紹介する「デザインのひきだし」で編集長を務める津田淳子氏によるトークショーが行われた。今回は初の試みとして、小山氏がナビゲーターを務めるFMヨコハマのラジオ番組「FUTURESCAPE」のリスナーと、「デザインのひきだし」の読者50名を会場に招待しての開催となった。ここではその模様を紹介する。

印刷好きな人は日本にも世界にもいる

冒頭、小山薫堂氏から津田淳子氏へ「デザインのひきだし」が創刊50号を迎えたお祝いに花束が贈呈され、対談がスタートした。



津田淳子氏

「デザインのひきだし」創刊号の発売は2007年2月、企画段階では8000部の予定であったが同社創業者の一言で1万部を発行、「ありがたいことに1~2週間で売り切れました」(津田氏)。

購入者は、グラフィックデザイナーやブックデザイナーが圧倒的に多く、次に印刷や紙の仕事をしている業界関係者がメインであるが、最近では、「個人で印刷物や作品集を作っている方、同人誌を作っている方、ただ紙や印刷が好きという方、何も作っていないけど見るのがすごく好きという方も購入されています」という。

なお、30号発行の際、一般読者による旧Twitter

のつぶやきの拡散から個人での購入が増え、そこから売れるスピードも速くなり、33号からは部数も1万3000部に増刷。「50号も2日ほどで弊社在庫がゼロになり、Amazon総合ランキングトップにもなりました。毎回、『日本にはこんなに印刷好きがいるんだな』と思います。それでも購入できなかったという方をSNS上で見かけますので、日本にも世界にも予想以上に印刷好きは多いのだと思います」(津田氏)。

エアブラシで1万3000冊を塗装



小山薫堂氏

毎回工夫を凝らした誌面作りが特徴的な同誌であるが、「挑戦的なものが多く、印刷の可能性や奥深さを感じる」と小山氏。津田氏は、印刷の面白さの一例に、紫外線が当たると発色する印刷を表紙に採用したエピソードを披露、「印刷は一度紙に固定されると、無意識にそこから変化すると

は思わないので、色や絵柄が変わると大きな驚きがあります」と語った。

また、小山氏から「今までに出版が間に合わなかったことは？」と訊ねられると、「思ったことはありませんが、私の設計ミスで、実際に納品が間に合わなかったことはあります」と津田氏。それは蛍光色を特集した号での出来事で、次のような制作裏話を語った。

「雑誌の小口部分を蛍光イエローに塗装したくて、作業してくれる製本会社をなんとか探し出したものの、機械で塗装すると飛び散ってパキュームされる塗料の方が多くなり、価格が高くなってしまったことが分かりました。なので、人件費を含めてもエアブラシで塗れば安くなるということで、1万3000部を手作業で塗装してもらいました。しかも、蛍光色は色が薄いので3度塗り。なおかつ、製本会社なので他にも本があります。もちろん囲いの中で作業しますが、他の本に色が付かないように、深夜と早朝に作業してもらったため、1日に数百冊しか完成しない。そういう事情を知らず

に頼んでしまい、申し訳ないをお願いして徐々に書店に納品することができました」

■ 紙幣に使われる高度な印刷技術

小山氏からの「もし、好きな印刷手法を好きな媒体で作っていいと言われたら？」との問いかけに、「お札」と答えた津田氏。「お札ほどの技術の結晶はないと思っています。(2024年に) 新しくなるお札も早くルーペで覗きたいですね。今はポリマー紙幣が増えていますが、私は紙のお札が好きです。あとは切手も好きで、印刷技術が面白いと思います。そういう技術の特許を調べてみるのもすごく好きですね」。

■ 宇野亞喜良氏の原画を特殊印刷で加工

会場には、グラフィックデザイナー・イラストレーターの宇野亞喜良氏の原画に、津田氏のアレンジでエンボスやレンズフィルム+UV オフセット、ラメ、コールドフォイルなどの特殊印刷を施した作品が展示されており、それぞれの加工につ



トークショー中盤、小池アミイゴ氏も登壇

いても解説が行われた。

さらに、トークショーに参列していた東京イラストレーターズ・ソサエティ（TIS）の小池アミゴ理事長が飛び入りで登壇したところ、小山氏から「TISの皆さんの作品を津田さんに提供したら面白いのでは」との提案が飛び出し、小池氏も「やりましょう。我々は印刷会社の方とコミュニケーションを取るまでの距離がとても遠い。自分の作品がこんなふうに印刷されたらいいな、こういうチャレンジをしたいな」という思いはありますが、今まで叶わずにきました。これは決定でよろしいですか（笑）」と話が弾み、津田氏も会場に向けて「その印刷を引き受けますという会社があれば、ぜひお声掛けください!」と呼び掛けた。

印刷はいつまでも興味が尽きない

小山氏から、「津田さんにとって印刷とは?」との問いかけがあった。

津田氏は、「一番興味が尽きないテーマ。『デザインのひきだし』で色々なお話を伺っても、毎号知らなかったことに出会います。それを使ってモノを作ることで読者にも喜んでもらえるので、いつまでも興味が尽きません」と話す。小山氏も、「そのためには同じものを作り続けることも大切ですが、挑戦をして期待以上の印刷物を作る、頼まれていないのに作って皆さんに気付いてもらうなどの努力も必要ですね」と後押しした。

最後に津田氏は、「印刷会社の方にお会いすると一番得意なことを聞くのですが、『うちは普通のオフセットしかやっていない』と謙遜されることも多いです。自社で普通だと思っていることが、私から見ると魅力的だといつも思います。凄いところは絶対にあると思うので、ぜひ教えていただきたいですね」と印刷会社を鼓舞するメッセージでトークをまとめた。



小山氏のラジオ番組リスナー、「デザインのひきだし」読者も会場に駆け付けた